

Eastspring Asia Now

Vol.32

肌で感じたムンバイ訪問記

eastspring
investments

消費を支えるインドのデジタルバンキングと家電量販店の今

5月下旬、弊社社員がインドのムンバイを視察しました。本レポートでは、今年に入り再び経済成長をけん引するインドの消費動向の様子を報告いたします。

- ▶ ムンバイ市街では、初の地下鉄となる「メトロ3号線」の工事が進んでいました。このプロジェクトは、2021年の完成を目指し急ピッチで進められているせいもあり、自家用車の普及とともに道路工事による渋滞が深刻化していました。
- ▶ 飲食店が立ち並ぶ市街地では、21時を過ぎても多くの人で賑わっていました。気温は30度を超えていましたが、エアコンの普及率が低いため家よりも外が涼しく、たくさんの方が屋台のような飲食店で食事を楽しんでいました。

デジタルバンキングは日本よりも盛り上がっているのでは！

- ▶ ムンバイに本社機能を置くインド最大級の民間銀行であるICICI銀行の支店を訪問しました。繁華街の一角にあるこの支店は、投資信託の販売実績で表彰されたとのこと。支店長に話を伺うと、投資信託や生命保険の販売も好調ですが、住宅ローンや農業関連企業の融資需要も旺盛とのことでした。
- ▶ インドでは、モディ政権発足後、政府からの補助金を現金給付でなく、銀行口座を通して受け取るシステムに変更したこともあり、2015年から銀行口座の普及率が急増しています。口座開設の際には、アドハーと呼ばれる国民ID（マイナンバーのようなもの）が必要です。これを登録すると、職歴や納税額などの個人データにアクセスすることができ、身元証明に使用できます。データベースの活用が、デジタルバンキング発展の一因と思われます。
- ▶ 投信の購入や融資案件で、インターネット・バンキングやモバイル・バンキングが多く利用されていると聞きました。特に若年層はスマートフォンのアプリを利用する人が多いとのこと。また、支店の入り口にあるEロビーと呼ばれる複数のサービス提供機械があるスペースで、スマートフォンがない人も24時間サービスが受けることが出来ます。Eロビーは地方の村での利用度が高いとのこと。



ムンバイ夜の繁華街。



支店入口付近の「Eロビー」、24時間サービスを受けることが可能。カメラを通して会話をしながら窓口と同じサービスを受けることができる。

白物家電の値段は日本と同じ水準：一般の人にはまだ高額

- ▶ インドで有名なタタグループ傘下の家電量販店に行ってみました。入口では荷物を預けさせられ、金属探知機で検査を受けます。身なりのきちんとした感じの人のみが入店を許されるような印象を受けました。家電量販店といっても、平均的な給与水準からはまだまだ高級品を扱う店のイメージでした。
- ▶ 冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどからパソコン、ステレオ、アップル製品まで品揃えは豊富で、多くのメーカーの商品が並んでいました。



大手家電量販店「Croma」。日本メーカーの他、米国、韓国、中国メーカーの商品が数多く並び、日本とほぼ同水準の価格で販売されている。店内は清潔で混雑していない。

(写真：イーストスプリング・インベストメンツ社員 撮影)

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

180613 (03)

英国ブルーデンシャル・グループ